令和8年度上伊那圏域地域自立支援協議会議事録			
会議	部会名　第３回 相談支援専門員連絡会	日　時	令和 8年 10 月 28 日(水) 13:30 ～ 15:30
	会　場　伊那市防災コミュニティセンター	参加者数	32 人
主テーマ	1 講義「意思決定支援について」 2 グループワーク 3 事業所紹介・その他		

内容

1 講義「障害福祉サービス等の提供に係る意思決定支援ガイドライン(第2版)の要点と実践
～選択の糸を紡ぐ伴走者として～」

講師　一般社団法人 地の会 アップ☆わ～く 理事・管理者

ガイドライン改訂の背景

国連・障害者権利委員会の総括所見(2022 年 10 月)において、「本人の最善の利益」という言葉の使用に国際的な懸念が示されたことを受け、障害者権利条約の本来の趣旨に立ち返り、根本的な考え方の転換を目指して第2版が発出された。

「最善の利益」から「意思と選好」への転換

支援者が「本人のために最善」と判断するパターナリズムから脱却し、本人がこれまでの生活や経験の中で示してきた意向・価値観である「意思(Will)」と、日常生活で繰り返し示される行動や反応、好き嫌いなどの「選好(Preferences)」を重視する。支援者には、本人に代わって決めるのではなく、「本人であればどう選ぶか」という視点から、意思と選好を最大限に解釈する役割が求められる。

理念・信条の再確認

「誰でも意思があります。わたしにも意思があります。」を基本姿勢とし、意思決定の主体はあくまで本人である。本人には、決定を強いられない権利や保留・変更する権利、誰かと一緒に考える権利がある。迷いや決定の修正も含め、本人の意思決定の過程を継続的に支えることが重要である。

意思決定支援の3つのプロセス

① 意思形成支援:未経験のことは選びにくいため、豊かな体験の機会を提供し、選択肢を一緒に探す。

② 意思表明支援:決断を急がせず、本人が安心して意思を表明できる環境を整える。

③ 意思実現支援:表明された意思を実生活に反映し、その経験を次の意思決定につなげる。

これら3つのプロセスを状況に応じて柔軟に繰り返すことが大切である。

アセスメントの視点の転換

判断能力や理解力を評価するのではなく、どのような環境や関わりがあれば本人の意思が形成・表明されやすくなるかを探る。意思がないのではなく、支援者が読み取りにくい場合もあるため、表情や視線、緊張、接近・回避など、日々の反応や生活の様子を記録・蓄積することが、本人の意思と選好を理解する鍵となる。

組織全体で支える仕組み

管理者は支援の風土づくりや体制整備、サービス管理責任者・意思決定支援責任者は会議の企画や支援計画への反映、多職種連携を担い、支援員等は日々の本人の意思の汲み取りと記録を行う。それぞれが役割を果たし、組織全体で支える仕組みが重要である。

リスクへの向き合い方と伴走

「他者に迷惑をかけないこと」を理由に過度な行動制限を行わず、他者の権利を侵害しない限り、失敗や不利益を受け入れる権利(リスクの尊厳／Dignity of Risk)を尊重する。日々の小さな選択の積み重ねを大切にし、将来の意思決定につながる経験を重ねられるよう、本人に寄り添い続ける姿勢が求められる。

	2 グループスーパービジョン 各グループに分かれ、事例発表者の事例に基づき演習を実施した。 3 事業所紹介・その他 ・生活介護事業所 結 - YUI - （株式会社 Enuelle） ・宿泊型自立訓練ホーム 和貴の森 ・就労選択 WG の動きについて報告
まとめ	本人の意思と選好を尊重し、本人が自分らしい選択・決定を重ねられるよう、意思形成から実現までを組織全体で支えることの重要性について学んだ。
次回	第 4 回：12 月 15 日（火）13:30～、場所：伊那市防災コミュニティセンター 内　容：ニーズの整理表に関する事例を用いた学習会